

- ◆ 日時 平成20年6月20日(金)13:40~16:30
- ◆ 場所 渡子小学校3・4年生教室
- ◆ 参加者 渡子小学校教職員

1 授業公開(13:40~14:25)

主題名	わたしのふるさと(4-(5)郷土愛)				
資料名	『ふるさとでいいことさがし』一部改作(出典:東京書籍)				
学習者	第3・4学年	3年生	男子4名	女子2名	計6名
		4年生	男子1名		計1名 (合計7名)



◆授業の概要

- 導入……渡子をイメージしながら「ふるさと」を歌う。
- 資料提示……場面絵や短冊を出しながら部分読みをし、場面状況を把握しやすくする。
- 展開前段……①この町には自慢できるものがないと思った時の気持ちを考える。
②おじいさんから「そば」の話を聞いた時の、子ども達の気持ちを考える。
③町のよさを見つけた時の気持ちを、ワークシートに書き発表する。
(主要発問)
- 展開後段……自分たちの心に残るふるさとを紹介しあう。
- 終末……地域の人に話を聞く。(ビデオ)

◆ 協議会

講師—呉市教育委員会 指導主事 神笠雅司先生

- 協議の柱—— 価値を高めるための発問のあり方。
価値の一般化をどのように図っていくか。
- 発問について、基本的には中心発問一つ、基本発問二つ程度である。必要以外のことを言うと、子どもが混乱する。今日の授業は、 unnecessaryな言葉が精選されていた。
- 中心発問では、価値の類型化をし、意見の交換、意図的指名を通して、違う意見についての意見を述べさす。かわり合うという点からも、一つの意見にどのようにからませ、気づかせていくかという過程が必要である。しっかり時間をとる。価値の類型化については、コールバーグ理論に



基づいたもの、他律から自律への発展からとらえるもの、する・しない・わからない等といったもの等、いろんな考え方をもっておく。

- 意見交換の場では、価値から離れていくら多く発言しても意味がない。価値に沿った発言をからませる。
- 価値の一般化は、前段の資料から離れ、違う角度から自分の生活を振り返ってみる場面であり、前段での高まった価値から、今の自分を振り返ることが大切になる。今回は、事前に描かせていた。心のノートに描いていた時(の自分)と、発表する時の自分の違いに気づくことができたらずばらしい。
- 構想図では、どのようにかかわらせたというのがわかるようにする。価値に対する共通体験をしていれば、共通の場面で考えさせることができる。